

MONTHLY REPORT



2023 年 1 月

Masato TANAKA

お正月。毎年当たり前のようにお餅とみかんに囲まれながら新年を迎え、神社に行って手を合わせる一年に一度の特別な時間。新年の神社で冷たくすっきりとした空気を吸って新年を実感し、おみくじを引いて未来の幸せや、一年の抱負を胸に抱く。僕はお正月が大好きです。

さて、留学生が家族や友人と離れた場所で過ごすお正月はどうでしょう。率直な感想としては、“寂しい”です。ヨーロッパには僕が大好きなお正月ムードは存在せず、あっさりと時が流れ、1月3日には学校で授業が始まっていました。もっとゴロゴロしたい！そんな思いは冬の風に飛ばされたようです。

【3, 2, 1, ハッピーニューイヤー】

冬季の学校休みを利用し、11日間かけて、ドイツ、ベルギー、オランダ、イギリスを巡り、年越しはロンドンで盛大な花火と共に祝いました。最高でした。新年を祝った後には初日の出を見るのが僕のお正月です。元旦の朝7時に飛び立つ飛行機を予約し、フランスに帰りながら飛行機の窓から初日の出を見ようという計画を立てていました。完璧なお正月になるはず。

しかし、11日間の旅の疲れはピークを迎えています。重たい荷物を抱え、知らない国を巡った最後の日の疲れは格別です。足先から脳みその奥深くまで“疲労”が僕を満たしていました。さらに、年越しの後にそのまま空港へ向かったので一睡もしていない状況です。飛行機に乗り込み、自分の席を見つけ、やっと家に帰れると安心したその瞬間、飛行機が離陸する前に気絶するように眠ってしまいました。

(・・・新年を祝った後には初日の出を見るのが僕のお正月です・・・)

ハッ!!! 気が付くと雲の上にいました。僕の初日の出!と焦って窓の外を見ると、水平線(雲平線?)に太陽が顔を出そうとしていました。何とか空の上の初日の出を迎える前に目が覚めたのです。日の出前の美しい空を眺め、どんな景色が見られるのかな?とワクワクしながら、また気絶するように眠ってしまいました。次に目が覚めた時には、飛行機は着陸を済ませていました。フラフラの体を引きずりながらなんとか家にたどり着き、溶けるようにぐっすりと眠りました。そんなお正月でした。



途切れかけの意識の中で撮った
初日の出、の直前の空

【ガレットデロワ】

1月7日。部屋を貸してくれている大家さんのご夫婦に誘われて、新年を祝う小さなパーティーをしました。シャンパンで新年をお祝いしましょう、ということでおいしいシャンパンと、ガレットデロワというフランスの伝統的なお菓子をいただきました。

東方三博士と呼ばれる三人がキリストの生誕を祝った出来事をもとに、ガレットデロワを食べる文化があるみたいです。留学に来てから、日本とは異なる文化や、宗教的な建物、行事や日常での振る舞いに触れることで、歴史や文化の起源に興味生まれ、宗教史や世界史を調べることが多くなりました。最近ではデザインだけではなく、歴史や宗教などを学ぶことが楽しいです。日本を離れることで、今まで知らなかった世界や、考え方に触れることができているので、留学に来てよかったなと日々感じています。



大家さんと仲良くパシャリ
シャンパンでぼかぼかな僕

【髪を切りました】

フランスに来てから、ひそかにずっと挑戦してみたかったのが美容室に行くことです。ヨーロッパの人々の髪質とアジア人の髪質は大きく異なり、髪形の傾向などもだいぶ差があります。そこでよく言われるのが、ヨーロッパで髪を切ると失敗する、ということです。

しかし、私は人間、髪は伸びるし、切りたくなります。自分で切るにも時間がかかります。事前にリサーチを済ませ、勇気を出して予約の電話を入れて、フランスの美容室の門をくぐりました。シャンプー台に案内され、耳の穴までバシャバシャと洗われているときは、あまりの雑さに笑いが止まりませんでした。髪を切り終わると、首元や背中に髪の毛が残っており、家に帰るまでチクチクと痛かったです。肝心の髪形は何の文句もなく仕上がったので大満足ですが、サービスの質に日本との差を感じ、笑ってしまいます。

お客さんと長話をしてレジに大行列を作るスーパーのレジ店員や、大音量で音楽をかけ流すバスの運転手、イヤホンをつけて電話しながら接客する店員など、日本に慣れ親しんだ僕からするとビックリ仰天な仕事ぶりの人がたくさんいます。自由だなと呆れることも多々ありますが、笑顔で Bonjour とあいさつし、Merci, au revoir. と笑顔で別れることは誰も忘れません。フランスの素敵な文化です。僕が住むニースをはじめ南仏は特に暖かく穏やかな人が多いです。心が温まります。幸せです。



近所のビーチから見える
赤く燃える美しい夕空
お気に入りの景色です